

北関東支部開催オープンスクール

開催日時： 2008年10月26日(日)

開催場所： 日本原子力研究開発機構 那珂核融合研究所

1. 概要

北関東支部主催のオープンスクールは、例年同様に、日本原子力研究開発機構・那珂核融合研究所の施設公開日に合わせて、同研究所内の会場をお貸しいただき開催された。開催日の10月26日は、曇り空の天気であったが幸いにも雨に降られることはなく、991名という多数の方々の参加をもって大盛況のうちに幕を閉じることができた。(写真1)



写真 1 会場の様子

2. 出展企画

各機関からの協力をいただき6つの企画を出展した。来場者の大多数が子供連れの家族であり、子供達と一緒に大人も楽しめるようなクイズや実験と内容も豊富でそれぞれの機関で工夫を凝らしたものであった。

(1) 原子力発電のしくみ (日本原子力発電(株))

アクリル製の原子炉の模型で、容器内の水が沸騰してその蒸気で羽根車が回り、原子力発電の仕組みを見せるデモンストレーション。また、原子力のクイズに答えてもらう。

(2) 空気が薄くなるとどうなるの？ (原子力機構 那珂研)

真空中にお菓子をを入れて袋を割る実演。マグデブルグの半球(2つの半球を合わせて中を真空にしたもの)を引っ張ってみて大気圧がいかに大きいかを実感する体験。(写真2)

(3) 知ってみよう！放射線 (原子力機構 核燃料サイクル研)

クイズに答えながら放射線に関する知識を学ぶ。また、温泉成分入りの入浴剤などの放射線を測り、生活の身近なところにも放射線があることを実感してもらう。

(4) 水素で遊ぼう！ (原子力機構 大洗研)

ペットボトル、鉛筆の芯、スポーツドリンクという身近なもので燃料電池を実際に作って実験してもらう。まず、電気分解で水素と酸素を発生させ、今度はその水素と酸素から電気を発生させて電子オルゴールをならす。

(5) 液体窒素と超伝導で遊ぼう (東京大学 原子力国際専攻)

液体窒素で冷やした超伝導体で磁石を浮上させる実演。液体窒素でカチカチに凍らせたバナナで釘を打つなどを体験してもらう。

(6) でんきとあそぼう！ (日立製作所 エネルギー・環境システム研究所&エネルギーを考える会 ひまわり)

備長炭、キッチンペーパー、食塩水を使って電気を作る備長炭電池、手回し発電機などで電気を発電する実験。原子力発電でできた電気が家に届くまでをたどるイライラ棒ゲームなど。



写真2 空気が薄くなるとどうなるの？－体験コーナー

3. アンケート調査

会場でアンケート調査を行い 209 件の回答をいただいた。回答者の割合は大人の方が 61%、小中高生が 29%であった。「内容はよくわかりましたか」の問いに対して「わかりやすかった」が 79%、また、「教え方はどうでしたか」に対しては「ていねいだった」が 94%と好評で、これもひとえに出展に協力して下さった講師の方々のご尽力の賜物である。「このオープンスクールに参加して原子力についての考えが変わりましたか」に対して「良い印象に変わった」が 87%、「原子力についてもっと知りたいと思いますか」に対して「もっと知りたい」が 84%と、オープンスクールという実践的なふれあいの場が、一般の人々に原子力を理解し興味を持っていただく上でも非常に有効な役割を果たしていることを物語っている。

4. おわりに

会場には風船を持った子供達であふれ、実験や体験に興じる様子はなかなか微笑ましいものである。休日の一時を楽しんでいただけたならば望外の喜びである。最後になりますが、お忙しい中で出展にご協力下さいました講師の方々、ならびに関係者の方々に深くお礼申し上げます。

平成 20 年度オープンスクールアンケート調査結果

今回の企画に足を運んでいただいた参加者に、オープンスクールの感想についてアンケートへの協力をお願いした。回答数は 209 件で、昨年度の 151 件よりも上昇したが、参加者数が大幅に増加したことに伴い、参加者数に対する回答数の割合は 21%と昨年度の 31%よりも減少した。

オープンスクールの目的は、原子力の普及や、そのために取り組んでいる我々の活動について地域の理解を得ることだと考えている。アンケートの結果からは、

- ・ 企画の内容について； わかりやすかった(79%)
- ・ 参加しておもしろかったか； おもしろかった(96%)
- ・ 原子力についてもっと知りたいと思うか； もっと知りたい(84%)

などの感想が得られ、オープンスクールの目的を果たすと共に、原子力やエネルギー問題についての啓蒙活動の一助になったものとする。

以下に集計結果を示す。



